

施設看取り研修会

施設看取りの不安・気づき・そして今
～つながるケア～

社会医療法人高橋病院

グループホームなでしこ

ユニット長 野宮 勝

○グループホームとは？

認知症高齢者グループホームは、認知症の高齢者が少人数で共同生活を送る介護保険サービスです。

- 少人数制：1ユニットあたり5人から9人の少人数で共同生活を送ります。
- 家庭的な環境：家庭的な雰囲気の中で、介護スタッフの支援を受けて自立した日常生活を送ることができます。
- 地域密着型サービス：原則として同一市町村の住民のみが入居可能で、地域に根ざしたサービスを提供します。
- 生活リハビリ：料理や掃除などの家事をスタッフと一緒にやり、日常生活のスキルを維持します。
- 認知症の進行を穏やかに：家庭的な環境の中で、認知症の進行を穏やかにし、安心感を与えることができます。

グループホーム 秋桜 (3ユニット)

函館市宝来町14番25号



1階 グループホーム
デイサービス

2階 グループホーム

グループホーム なでしこ (2ユニット)

函館市大縄町20番19号



1階 小規模多機能型居宅介護
居宅介護支援事業所

2階・3階 グループホーム

社会医療法人 高橋病院
函館市時任町1番2号



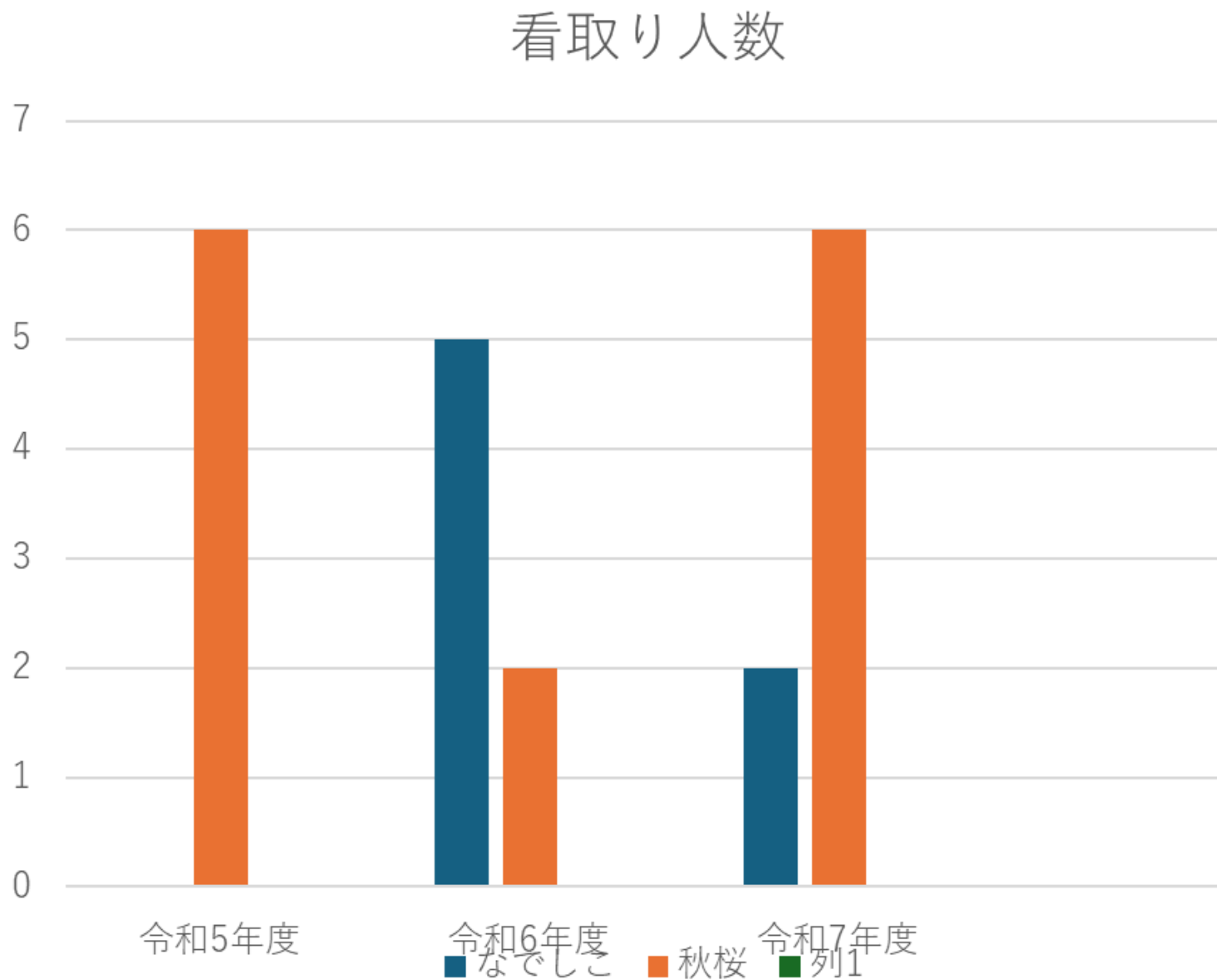
- ・高橋病院訪問診療(月2回) ・医療連携看護師(24時間相談可能)月2回の健康管理指導
- ・はこだて医療・介護連携サマリー、IDリンクの活用を行い情報の共有を行っている

○年間の看取り人数

○令和5年度
なでしこ～0名
秋桜～6名

○令和6年度
なでしこ～5名
秋桜～2名

○令和7年度
なでしこ～2名
秋桜～6名



○職員教育

- ・施設内研修 年1回 担当者が開催

※苦しみをやわらげるためのケアの工夫、亡くなる数日～数時間前、最後の日が近付いたらどのような状態になるか、死後のこと(誰に知らせるか・葬儀社・着せてほしい服)を前年度行った。

- ・外部研修への参加
- ・不安な職員には随時アドバイスやフォローを行う
- ・日頃より、本人に寄り添ったケアを行っているので特別な事を行う等、重く考える必要がない事を話している。
- ・御家族とは信頼関係、看取りについての理解や同意もある為、大きな不安には繋がっていない。
- ・医療連携看護師が24時間、365日、相談、アドバイスしてくれるので、不安は減少。

○看取りの対応になるまで

- ・入居前の見学で、御家族に重度化になっても、他の施設や病院に移ることなく施設での看取りが出来る説明を行い、安心して申し込みに繋がる事が出来ている。
- ・入居時には、再度看取りについて(ほぼ全員の方が希望)の説明を行い、御本人、御家族の希望や、施設でどのように過ごしてもらいたいかを聞いている。
- ・高齢(90歳以上)や、状態に変化が現れた場合は、早目に、御家族とICを開き、今後の方針を確認している。御家族には、施設での生活、健康状態の様子を随時報告しているので話がスムーズに行えている。
- ・IC後に、看取り同意書の発行する。毎月発行し、御家族の意思の確認をする
- ・ケアプランの変更

○看取り対応時

- ・御家族には、随時状態の報告
- ・部屋のレイアウトの変更

○部屋の入り口にベットを置く。

○リクライニング車椅子等でホールで過ごしてもらう。

○好きな音楽やテレビを付け、部屋への訪問を多くし、孤独を感じさせないようにする。

- ・食事は無理強いせず、好きだった食べ物、飲み物を家族に持ってきて頂き、食べれる物を食べて頂く。

- ・最後は、御家族、職員で看取る

→本人の好きな服を着てもらい、施設より見送る。

○デスカンファレンスの開催

- ・看取りの対応について、全職員と振り返りを行い、反省点や良かった点を話し合っている。
- ・訪問診療とカンファレンスを開催し、振り返りを行う。
- ・良かった事例、難しかった事例は、事例検討会にて発表し、情報共有をしたり、多事業所より意見をいただいたりしている。

○難しかった事例(悪性腫瘍)

(秋桜)

御家族・御本人は、施設での看取りを強く希望。職員は看取りを行いたいが今までとは違う看取りであった為、不安であった。職員間で話合いを行う中で、看取りたいという思いになる。痛みについては、家庭用麻薬の使用を行い、訪問診療からの使用方法の説明を受けた。訪問看護も毎日利用し、介護職員の不安の軽減を行い、最後まで穏やかな看取りを行う事が出来た。

(なでしこ)

御家族・御本人は、施設での看取りを強く希望。職員は看取りを行いたいが不安があった。職員間で話合いを行う中で、秋桜でも同じような事例があった話を聞く事で、看取りたいという思いになる。痛みについては、秋桜と同様に家庭用麻薬の使用を行い、訪問診療からの使用方法の説明を受け、訪問看護も毎日入れて、介護職員の不安の軽減を行い、最後まで穏やかな看取りを行う事が出来た。

○結語

- ・以前は、看取りについて不安に感じる職員が多かったが、一緒に過ごす中で、グループホームの良い所である個別的なケアや、利用者の事を多く知り、信頼関係を築くなかで、自分たちで最後まで看取りたいという思いが強くなっている。
- ・御本人や御家族が、グループホームで看取りをしてほしい思いを共有する中で、自分たちへの信頼感を感じることで、仕事へのやりがいにも繋がり、モチベーションを上げる事が出来ている。
- ・看取りという言葉を聞くと、重く感じてしまいが、実際はそのような事はなく、最後まで施設で過ごしたいと思ってくれた事に感謝することで、最後まで寄り添ったケアに繋がる事が出来ている。

今後も、グループホームで最後まで暮らすことが出来て良かったと思えるよう取り組んでいきたい。